

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	倉敷市立玉島西中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	41
生徒数	164	180	163	2	509	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力を身につけさせるために」 わかる授業の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた授業を心がけ、一人ひとりにわかる喜びを味わわせる。 ・学びの機会を充実し、学習意欲を高める。 ・学習環境を整え、学ぶ習慣を身につけさせる。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年全教科 （「学力」を構造としてとらえており、「基礎・基本」から発展的な内容まで、各教科の「基礎・基本」を研究の対象） ・ 数学、理科、英語 （理解度の差がでやすく、きめ細かな指導が望まれる教科であり、少人数制、習熟度別授業を行う。）
--

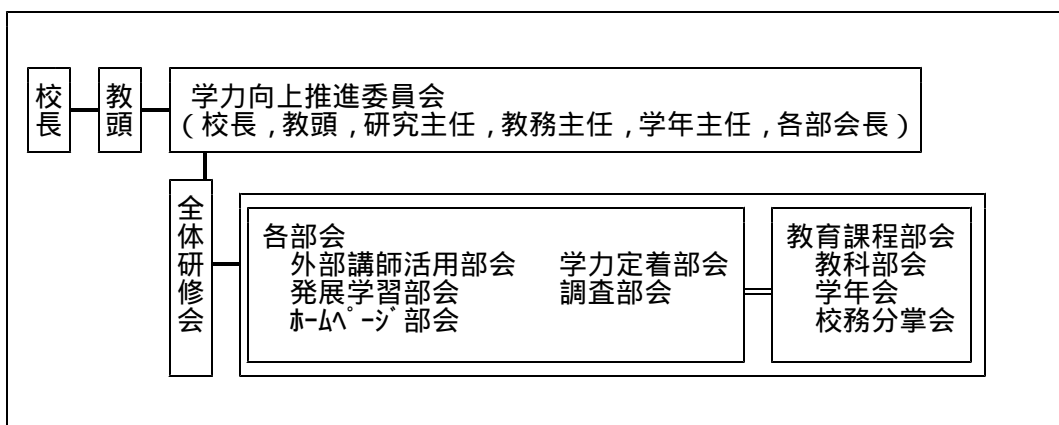
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力を身につけさせるために」 わかる授業の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた授業を心がけ、一人ひとりにわかる喜びを味わわせる。 ・学びの機会を充実し、学習意欲を高める。 ・学習環境を整え、学ぶ習慣を身につけさせる。 <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>がんばれない子どもたち、がんばることに価値を見いだすことができる子どもたちに、どのようにして「学び」の喜びを味わわせ、実行に移させることができるか。そのことを、本研究の中心においた。「学力とは何か」からスタートし、学力についての共通認識をし、本校の生徒の実態に即した指導・研究をおこなうことが重要であると考えた。</p> <p>個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着させる。そして、それを基に自ら学び自ら考える力など、21世紀に通用する「生きる力」を育成する。そうすることが確かな学力を向上させることにつながると考えた。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の目的(テーマ)・方法の共通理解を図る。 ・ 「学力」「基礎・基本」などについての概念の研修を行う。 ・ 絶対評価における、評価規準をもとに評価基準を明確にする研究を行う。 ・ 少人数指導の導入、習熟度別指導の試行、選択履修幅の拡大を行う。 ・ 授業研究会の実施、外部講師による理論研修会の実施。
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけさせるために」 わかる授業の創造 ・個に応じた授業を心がけ、一人ひとりにわかる喜びを味わわせる。 ・学びの機会を充実し、学習意欲を高める。 ・学習環境を整え、学ぶ習慣を身につけさせる。</p> <p>研究の見通し がんばれない子どもたち、がんばることに価値を見いだすことができない子どもたちに、どのようにして「学び」の喜びを味わわせ、実行に移させることができるか。そのことを、本研究の中心においた。「学力とは何か」からスタートし、学力についての共通認識をし、本校の生徒の実態に即した指導・研究をおこなうことが重要であると考えた。 個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着させる。そして、それを基に自ら学び自ら考える力など、21世紀に通用する「生きる力」を育成する。そうすることが確かな学力を向上させることにつながると考えた。</p> <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)教科部会（各教科でテーマを決め研究を行い、授業公開を行う。） <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発，指導法の工夫改善 ・選択教科の習熟度別クラスについて（国，数，英） ・選択教科の指導について（全教科） ・年間指導計画の見直し ・評価基準・規準の見直し 2)外部講師活用部会 <ul style="list-style-type: none"> ・選択教科におけるボランティア・ティーチャーの活用 3)学力定着部会（小学校・中学校の学習内容の基礎学力調査を行う。） <ul style="list-style-type: none"> ・補充学習，質問教室の開催。 ・チェックテスト・朝学習の取り組み。 4)発展学習部会 <ul style="list-style-type: none"> ・タイの中学校との交流（Eメール） 5)調査部会（アンケート調査を実施し，結果を集計・考察を行う。） <ul style="list-style-type: none"> ・生活実態アンケート（学習面，生活面）・授業アンケート
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけさせるために」 わかる授業の創造 ・個に応じた授業を心がけ、一人ひとりにわかる喜びを味わわせる。 ・学びの機会を充実し、学習意欲を高める。 ・学習環境を整え、学ぶ習慣を身につけさせる。</p> <p>研究の見通し がんばれない子どもたち、がんばることに価値を見いだすことができない子どもたちに、どのようにして「学び」の喜びを味わわせ、実行に移させることができるか。そのことを、本研究の中心においた。「学力とは何か」からスタートし、学力についての共通認識をし、本校の生徒の実態に即した指導・研究をおこなうことが重要であると考えた。 個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着させる。そして、それを基に自ら学び自ら考える力など、21世紀に通用する「生きる力」を育成する。そうすることが確かな学力を向上させることにつながると考えた。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修教科での習熟度別授業の取り組み。（数学，理科，英語） ・学力向上に関する学級指導の時間の時間を総合学習として（週1時間，年間35時間）を位置づけ，年間指導計画を立てる。 ・選択教科におけるボランティア・ティーチャーの活用 ・タイの中学校との交流（Eメール） ・アンケート（学習・生活・授業）調査を実施し，結果を集計・考察を行う。 ・小中・中高の連携について
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 「学力」「学力向上のための具体的な方策」の共通認識と研究方向が明確化できた。
- ・ 65%の生徒が外部の人材に対して「教えてもらってよかった。」と答えた。少人数授業に対しては、過半数が「よい」と答え、学習内容が理解しやすくなったと答えた。習熟度別授業については、2, 3年生とも3分の2以上の生徒が「よい」と答え、「集中しやすい」「ゆったりしている」と答えた生徒が多かった。外部の人材を活用、少人数授業や習熟度別授業などの「個」に応じた授業を展開することで、学習に対する姿勢が積極的になったり、学習への意欲が向上した生徒が増えた。
- ・ 多くの研究授業や研修会などを経験することで教師一人ひとりの力量が向上した。
- ・ 生徒の実態を知り、保護者・地域の願いを理解し、教師自身が「学力」「基礎・基本」「教育」とは何かを考え、実践を積み重ねることを通じて学校全体が活性化した。
- ・ 外国との交流や外部の人材の活用など、新しい試みを行うことで、教師の意識改革や外部からの新しい刺激など、地域に開かれた学校の効果を教師一人ひとりが実感できた。

2. 今後の課題

- ・ より生徒のニーズに応じられる「個」に応じた授業形態の工夫・改善や指導と評価の更なる一体化などを図っていく必要がある。
- ・ 学力向上フロンティア研究の成果と課題をより明確にしていく取り組みを実践していく必要がある。そのためには、教師一人ひとりが資質の向上が必要であり、日々の地道な研究の積み重ねこそ重要であると考えている。
- ・ 本年度は、選択教科での習熟度別クラス編成を行ったが、来年度に向けて必修教科での習熟度別少人数授業の準備・研究を行っていきたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 平成15年7月に全校生徒を対象に一斉基礎学力テストを実施した。生徒のもつ小学校の学習内容に対する知識・理解のレベルを正確に知り、今後の研究の基礎データとする目的で実施した。1年後に同じテストを実施し、研究の成果と課題を明確にする予定である。
- ・ 来年度は、全校生徒対象に標準学力検査(NRT)を実施する予定である。
- ・ 学力の向上と日々の学校生活や家庭における実態との因果関係をつかむために、生徒の実態調査を実施した。
- ・ 英語検定、漢字検定などの公認検定の受検を推進する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ おかやま「学びのすすめ」フォーラム 実践報告 平成 15 年 7 月 25 日(金)
鴨方町民会館
- ・ 教育セミナー 2003 岡山 実践報告 平成 15 年 8 月 23 日(土)
岡山県生涯学習センター
- ・ 公開授業研修会開催 平成 15 年 11 月 25 日(火)
- ・ 倉敷市中学校教育課程研究協議会 実践報告 平成 15 年 12 月 25 日(木)
倉敷市市庁舎
- ・ H P 上で研究の取り組み, 成果と課題, 研究会の情報などを紹介する。
<http://www.kurashiki-oky.ed.jp/School/tamanishi-j/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校
- 【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 10 ~ 12 学級
 13 ~ 15 学級 16 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T . T による指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無